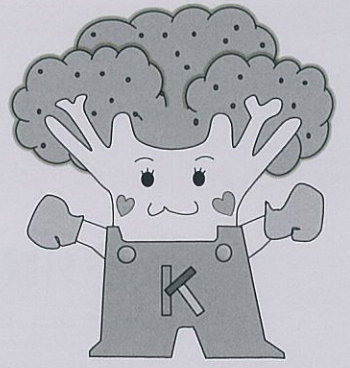




穂肥の適期施用できれいな米づくり!!

■生育概況

生育は平年より3～4日早く、前年並です。草丈はゆめみづほ、コシヒカリともに平年より長いです。茎数は圃場によって差があるものの、ゆめみづほは平年並、コシヒカリは平年より多くなっています。ゆめみづほの幼穂長は、田植えの早い圃場で確認されています。

出穂予想(6月17日現在)

	平成28年度	参 考	
		平成27年度	平 年
ゆめみづほ	7月15日～17日	7月15日	7月19日
コシヒカリ	7月25日～27日	7月25日	7月28日

※今後の天候次第で変動することがあります。

早生の穂肥施用(10a当り)

品種名	区 分	分 施		穂肥一発肥料
		1回目	2回目	
ゆめみづほ 出穂予想 7月15～17日	施用時期	6/22～6/24 出穂23日前	7/5～7/7 出穂10日前	6/23～6/25 出穂23日前
	1回目の施用基準	幼穂長：1.5～2mm 葉色：4.0	—	幼穂長：1.5～2mm 葉色：4.0
	一般米	BB有機かが (13 - 5 - 10) 15～17kg	BB有機かが (13 - 5 - 11) 15kg	BB有機 LP850号 (18 - 5 - 10) 23～27kg
	加工用米等	BBエコ400 (14 - 10 - 10) 20kg	BBエコ400 (14 - 10 - 10) 20kg	

※基肥一発肥料田で茎数が少ない場合：分施の1回目と2回目の中間の時期に窒素成分で1kg/10a以内で追肥する。

※穂肥施用時の注意事項

- 圃場によって生育の差があるので 幼穂長(1.5～2mm) を必ず確認してから施用すること。
- 地力の高い圃場や転作後の圃場では施用量をやや少なくすること。

■水管理

- コシヒカリは7月5日まで中干しを継続する。
- 中干し終了後は常に土壤に水分がある状態に保つ(飽水状態)。
- フェーン現象時には、事前に入水し稲体を守る。

■カメムシの防除は除草から…

7月10日までに畦畔等の雑草を刈り取ろう!

※刈り取った雑草は水路に落とさないよう注意し、河川に流れ込まないように作業して下さい。

カメムシ被害粒防止は「畦畔除草」＋「本田の一斉防除」

うまい・きれいな加賀米づくりのポイント「適正穂肥」＋「飽水管理」

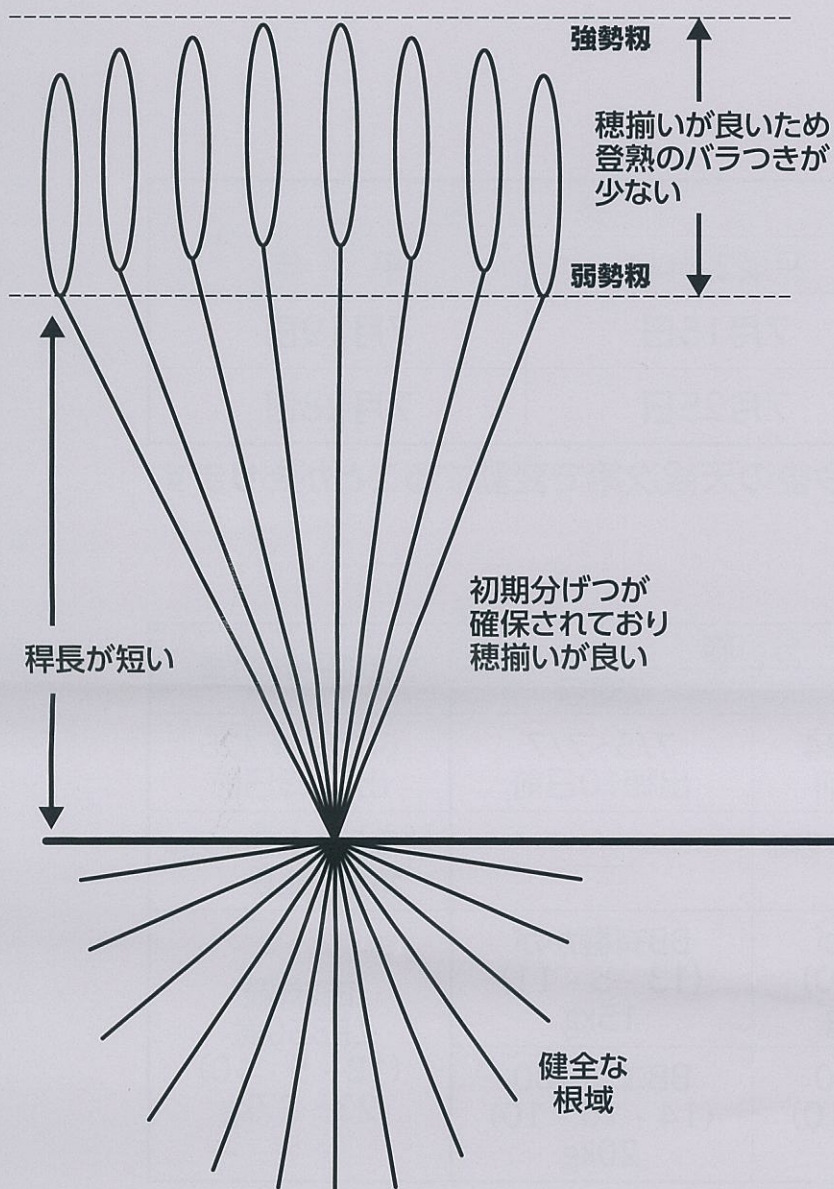
きれいな米づくりに向けて

収量・外観品質・食味の三拍子揃ったお米を生産するためには、登熟を向上させることが重要です。

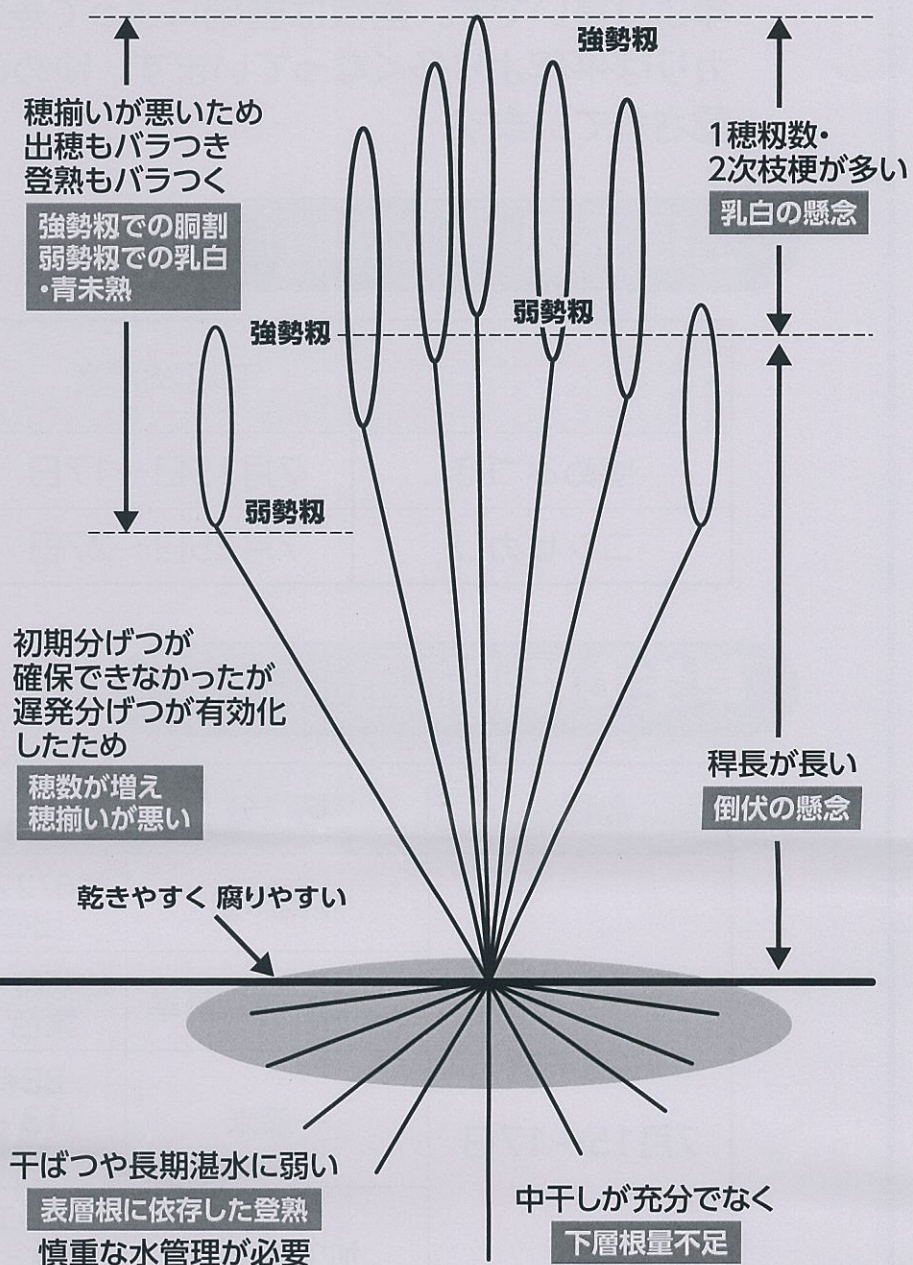
登熟を向上させる為には中干しの実施、間断通水の水管理が必要です。

中干しの終了は幼穂形成期頃で、ゆめみづほで6月末、コシヒカリで7月5日頃です。

中干しを実施した場合



中干しをしない場合



2次枝梗を減らし、登熟を向上させましょう！

左図の黒色の粳は2次枝梗といいます。登熟能力が低いので乳白粒や未熟粒の発生が多い箇所です。幼穂形成始期(7月上旬)に葉色が濃いと多くなります。下記の3点を行い、2次枝梗を減らしましょう！

- ① 初期分げつを確保する。
- ② 中干しを徹底する。
- ③ 適期に穂肥を施用する。

